発行：岡山大学広報課

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.55 2020.11

OKAYAMA UNIVERSITY

TOPICS 1 林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン構想検討委員会 設立記念シンポジウム「森林・木材・建築のこれから」を開催

本学と真庭市は、関係機関と連携し、真庭の強みである林業、木材関連産業を生かした地域活性化、地域価値の向上、人材育成を目的として「林業・木材・木造建築に関する教育・研究拠点の集積連携ゾーン整備」に向けた検討委員会を7月2日に設立しました。この設立および、2021年4月からスタートする本学の新生「工学部」における建築教育プログラムの設置を記念し、11月4日、「森林・木材・建築のこれから」と題したシンポジウムを開催しました。

特別講演では隈研吾本学特別招聘教授が「木質建築と地方の可能性」と題して講演。「木材建築は、コロナの時代に新しいライフスタイルを提案できる可能性を秘めている。岡山大学には新しい渦を起こしてほしい」と話しました。パネルディスカッションでは、さまざまな角度から木材や本委員会のゾーン構想に関する議論を深めました。会場とオンライン上で計約400人が参加しました。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9759.html

TOPICS 2 岡山大学とUNCTADによる「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」のオンラインキックオフセレモニーを開催

11月11日、岡山大学と国連貿易開発会議（UNCTAD）による「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース：Young Female Scientist Programme in Japan」のキックオフセレモニーをオンラインで開催しました。

本学とUNCTADは、1月9日に、STI for SDGsの人材育成に向けて、大学としては世界初となる包括連携協定を締結。今回は本協定に基づき、UNCTAD加盟国におけるアセアン諸国及びアフリカの途上国を対象に、2週間から1カ月程度の短期の共同研究・研修を行う「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」への参加者7人がUNCTAD加盟国および本学の選抜を通して正式に決定したことから、各若手女性研究者達とUNCTAD関係者および岡山大学とをオンラインでつなぎ、本キックオフセレモニーが開催されました。若手女性研究者は、各研究室を訪問し、短期の研究活動を行うとともに、本学が推進するSDGsの取組等について学ぶ予定です。

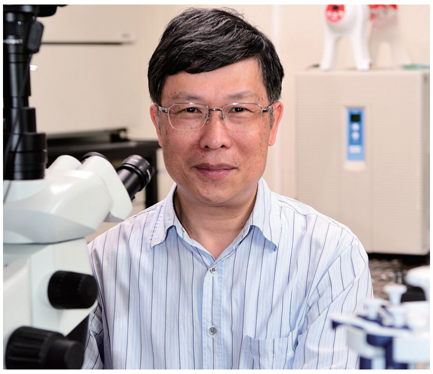
参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9776.html

Pick up! 令和2年度大学祭をオンラインで開催

10月31日～11月1日、学生団体のパフォーマンスや、部活動・サークルの動画・作品などを特設WEBページ内で公開する「令和2年度オンライン大学祭」を開催しました。WEBページの制作は、校友会クラブの電子計算機研究会が担当し、学長や大学祭実行委員長のメッセージ動画の撮影は校友会クラブの放送文化部が協力。アンケートでは「遠方なので行けなかったが、手軽に多くの団体の活動が見られて楽しかった」「新しい大学祭に、努力が感じられて良かった」といった感想が寄せられました。大学祭実行委員長の井上優人さん（工学部2年）は、「“オンライン”という形での大学祭だったので不安でしたが、多くの方々のご協力や実行委員の熱い思いから、大学祭を無事開催することができました。『足を運ばずとも楽しめる』という意見も多くあったので、オンラインを利用した大学祭も視野に入れ、令和3年度津島祭の開催に向け精進していきます」と話していました。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9764.html

TOPICS 3 沈教授が令和2年秋の紫綬褒章を受章



異分野基礎科学研究所の沈建仁教授・副所長が、令和2年秋の紫綬褒章を受章しました。紫綬褒章は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方に贈られる国家褒章です。

沈教授は生化学・植物生理学研究に関する功績が認められ、受章が決定しました。沈教授は植物などが行う光合成において、太陽光エネルギーを利用した水分解反応の触媒である光化学系IIタンパク質複合体の原子構造を世界で初めて解明。さらに反応の途中段階にある触媒の構造を解明し、当該水分解反応の機構解明に大きく貢献しました。また、光合成に係る他の巨大膜タンパク質複合体の構造解析に取り組み、光合成における光エネルギーの高効率利用機構の解明に貢献していることが評価されました。

沈教授は、「紫綬褒章をいただけたことを大変うれしく思っています。これまで共同研究してきた方々に感謝するとともに、今後も積極的に研究を継続していきたいと思っています」と話しています。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9700.html

TOPICS 4 株式会社林原から、留学生へ食糧支援をいただきました

11月17日、株式会社林原から本学留学生へ食糧のご寄付をいただき、留学生への配付を行いました。コロナ禍が長期化し、アルバイトも難しく経済的に困窮している留学生が増えている中、8月に「SDGs産学パートナーシップに関する協定」を締結した同社が、本学に食糧の寄付を提案。同社の製品を使用した「レトルトご飯」「パン」「インスタントラーメン」「カップライス」などの食糧品各600食および、同社が製造する「トレハロース」のサンプル1200個の寄付をいただきました。

津島キャンパスL-caféで開催された贈呈式において、同社の安場直樹代表取締役社長が、槇野博史学長へ目録を贈呈。留学生代表のACHEAMPONG Daniel Kwabena Boatengさんへ支援食糧品を贈呈していただきました。その後、L-café西ポーチにて、本学及び同社の職員が、津島キャンパスの留学生93人へ支援食糧品を手渡しました。18日には鹿田キャンパスの留学生44人へ配付したほか、今後受け取りに来られなかった留学生や、倉敷地区などに在籍する留学生にも随時配付予定です。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9794.html

PRESS RELEASE オオムギ遺伝資源のゲノム多様性を解明 ―オオムギのデジタル育種の実現が期待―

資源植物科学研究所の佐藤和広教授、平山隆志教授、理化学研究所環境資源科学研究センターの持田恵一チームリーダー（資源植物科学研究所特任教授）らの共同研究グループは、2万種類以上のオオムギから、ゲノムの部分配列による遺伝子鑑定で選んだ20品種を、最新の塩基解読法および整列技術で個別に解読し、世界中のオオムギに含まれるDNA配列の大要を明らかにしました。

オオムギは7対の染色体を持ち、そのゲノム配列は約50億塩基対と巨大で、ヒトの1.7倍、イネの13倍もあります。オオムギでは、これまで単一の品種の精密な塩基配列を基に、別な品種の配列を重ねることで、遺伝子同定や遺伝子鑑定技術の開発をしていました。しかし、この方法では、目的とする品種の遺伝子配列が元の品種になければ、解析することは困難でした。このため、本研究グループは20種類の野生および栽培オオムギを個別に高精度解読して、オオムギのDNA配列の大要を得る「パンゲノム（Pan Genome）」解析を行いました。その結果、品種間で遺伝子領域配列の63%が共通で、残りの37%は異なることがわかりました。また、この解析から、過去の育種の過程で起きたゲノム構造の逆位を確認しました。研究成果は、11月25日に英国科学雑誌「Nature」オンライン版に掲載されました。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id787.html